

授業科目名 科目コード	地域経営 (Regional Management) 392074-14-120					担当教員	栗井 英大 (クリイ ヒデヒロ)		
科目区分	専門科目	必修・ 選択区分	選択	単位 数	2	配当年次	2年次	開講期	前期
科目特性	地域志向科目／知識定着・確認型 AL／外部講師招聘科目								

## ① 授業のねらい・概要

少子高齢化・生産年齢人口の減少などを背景に、都市と地方の格差が次第に拡大し、地方衰退の流れが加速している。一方、私たちが「政(まつりごと)」を委託している行政が、行財政の効率化のもと、地域の全ての課題に対処することができないことも事実である。その結果、解決策を地方自治体に求めるのではなく、住民の手で課題・困難に対処しなければならないケースが多く生じている。

そこで、本講義では、まず市町村合併の背景・その後の変化等を学ぶことで、地方行政の現状を理解する。その上で、地域の課題解決・活性化のために、行政・私たち地域住民は何が可能なのか、またどのような取組み方法があるのかについて、具体的な事例を紹介する過程を通じて理解する。

## ② ディプロマ・ポリシーとの関連

1 地域社会に貢献する姿勢／2 職業人として通用する能力を養う。

## ③ 授業の進め方・指示事項

講義は、パワーポイントを活用し講義を行い、書き込み式の配付資料の空欄を学生自ら埋めていく方法で進める。また、講義冒頭では、記憶の再生、定着を促すために、前回講義の復習を行う。

正当な理由のない遅刻・途中退席は認めない。

日々の社会的な出来事も積極的に取り上げるほか、学生の意見を取り入れつつ、講義を進める。そのため、授業内容が変更となる場合がある。

## ④ 関連科目・履修しておくべき科目

「地域活性化論」

## ⑤ テキスト (教科書)

テキスト指定なし。授業開始時にレジュメを配布する。

## ⑥ 参考図書・指定図書

山内道雄 岩本悠 田中輝美 (2015) 『未来を変えた島の学校』 岩波書店  
その他、テーマに関連した参考文献や関連情報を必要に応じ紹介する。

⑦ 評価 A に対応する具体的な学習到達目標の目安
(i) 「平成の大合併」と地方財政の現状を理解・説明することができる。
(ii) 行政による地域活性化手法を理解・説明することができる
(iii) 地域資源を活用した、農商工連携を説明し、具体策を構築することができる。

⑧ ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	S 到達目標を越えたレベルを達成している	A 到達目標を達成している	B 到達目標達成にはやや努力を要する	C 到達目標達成には努力を要する	D 到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 平成の大合併と地方財政の現状の理解・説明	平成の大合併と地方財政に関して、資料等に頼らず説明でき、授業内容を越えた学修成果を示している	平成の大合併と地方財政に関して、資料等に頼らず説明できる	平成の大合併と地方財政に関して、資料等を見ながら説明できる	平成の大合併と地方財政に関して、資料等を見ながら、さらに教員等の支援を受けて説明できる	平成の大合併と地方財政に関して、資料等を見ても、教員等の支援を受けても説明できない
(ii) 行政による地域活性化手法の理解・説明	行政による地域活性化手法に関して、資料等に頼らず説明でき、授業内容を越えた学修成果を示している	行政による地域活性化手法に関して、資料等に頼らず説明できる	行政による地域活性化手法に関して、資料等を見ながら説明できる	行政による地域活性化手法に関して、資料等を見ながら、さらに教員等の支援を受けて説明できる	行政による地域活性化手法に関して、資料等を見ても、教員等の支援を受けても説明できない
(iii) 地域資源を活用した農商工連携の説明と具体策の構築	地域資源を活用した農商工連携に関して、資料等に頼らず説明でき、授業内容を越えた学修成果を示している	地域資源を活用した農商工連携に関して、資料等に頼らず説明できる	地域資源を活用した農商工連携に関して、資料等を見ながら説明できる	地域資源を活用した農商工連携に関して、資料等を見ながら、さらに教員等の支援を受けて説明できる	地域資源を活用した農商工連携に関して、資料等を見ても、教員等の支援を受けても説明できない

⑨ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標（評価項目）	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	60%			30%		10%		100%
(i) 平成の大合併と地方財政の現状の理解・説明	20%			10%		4%		34%
(ii) 行政による地域活性化手法の理解・説明	20%			10%		4%		34%

(iii) 地域資源を活用した農商工連携の説明と具体策の構築	20%			10%		2%		32%
フィードバックの方法	初回講義内で、成績評価の方法・基準、講義の進め方、試験の方法等について、具体的に説明するので、出席すること。							

⑩ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
行政による地域活性化を考えるべく、多くの全国・県内の事例を紹介する。

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分） （※特別な持参物）	
1	講義ガイダンス 都市と地方の格差	講義の復習 都市と地方の格差	120分
2	人口減少	講義の復習 人口減対策	120分
3	人口減少対策の先進事例	講義の復習 市町村合併の必要性	120分
4	平成の大合併とその背景	講義の復習 市町村合併のメリット・デメリット	120分
5	合併後の変化	講義の復習 周辺市町村の活性化策	120分
6	住民自治の事例紹介	講義の復習 地域活性化に向けた取り組み	120分
7	NPO とは	講義の復習 県内 NPO 法人の概要	120分
8	NPO の現状と課題	講義の復習 NPO 法人の立ち上げ	120分
9	◆地域おこしと産学連携 （予定）	講義の復習 講義内容のレポート作成	120分
10	島根県海士町①地域産品ブランド化	講義の復習 I ターン・U ターンの推進策	120分
11	島根県海士町②島前高校	講義の復習 廃校の活用方法	120分
12	農商工連携とは	講義の復習 県内の農商工連携事例	120分
13	農商工連携事例①富山県氷見市	講義の復習 県外の農商工連携事例	120分

14	農商工連携事例②北海道江別市	講義の復習 農商工連携の成功のポイント	120分
15	農商工連携のポイント 講義のまとめ	講義の復習 期末試験に向けた準備学習	120分

⑫ アクティブラーニングについて			
知識定着・確認型ALを採用する。			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回講義中に課題・問題を出すことにより、インプット型の講義に加えて、学生の知識のアウトプットも重視し、知識の定着を目指す。</li> <li>・前回講義中に受け付けた質問・感想、及び宿題の内容について、講義中にフィードバックを行うことで、理解度を高めていく。</li> </ul>			

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の概要			
平成15(2003)年3月～平成24(2012)年6月まで、(財)新潟経済社会リサーチセンターに在籍。研究員として、新潟県経済の調査分析および業界動向等の調査レポート作成業務に従事した。			
実務経験と授業科目との関連性			
県内外の地域活性化事例に触れ、各種レポート作成に携わった経験を生かし、地域を活性化した具体的な事例を分かりやすく紹介する。			